

冬季大会
特集

いちご一會とちぎ国体



第77回 国民体育大会 夢を感動へ。感動を未来へ。2022

くわしくは 国体推進課 ☎0288-25-6900

令和4年1月24日～1月30日の7日間、市内の会場において第77回国民体育大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会「いちご一會とちぎ国体」が開催されました。栃木県での冬季大会開催は2014年「ひかりの郷日光国体」以来、8年ぶり9度目となります。



開始式

【日時】1月24日(月)
【会場】今市文化会館

開始式では各都道府県選手団の旗手が登壇、ステージ上で歓迎アトラクションも催され、今市小学校の児童の皆さんが、新型コロナウイルス禍の厳しい状況下で競技に臨む選手たちに「いちご一會ダンス」でエールを送りました。



粉川市長は開催地あいさつで「日ごろ鍛えた技と力を十分に発揮し、悔いのないよう全力を尽くしてください」と選手の皆さんを激励しました。



スケート(ショートトラック)

【日時】1月24日(月)・25日(火)
【会場】今市青少年スポーツセンター
屋内スケートリンク

着順で順位が決まるため、集団で滑走しコースを奪い合いながら勝負を仕掛けるスリリングな駆け引きに！選手同士が接触しないかとハラハラドキドキの展開が続きました。



成年女子500メートル1位
山浦美和子選手(県スポーツ協会)



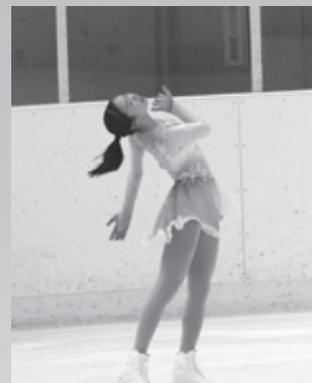
成年男子1000メートル1位
齋藤慧選手(県スポーツ協会)



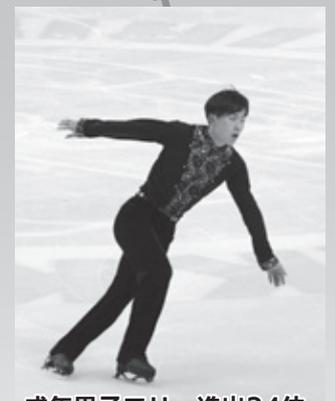
スケート(フィギュア)

【日時】1月24日(月)～27日(木)
【会場】栃木県立日光霧降アイスアリーナ

氷上で繰り出されるパワーあふれるジャンプ、音楽に乗せて繰り広げられるステップや美しいスピン。選手が音楽を全身で表現する優雅な滑走や振り付けによる、華麗な熱戦が繰り広げられました。



少年女子フリー進出23位
北条楓選手(鹿沼東高校)



成年男子フリー進出24位
鈴木雄大選手(尚美学園大)



アイスホッケー

【日時】1月26日(水)～30日(日)

【会場】栃木県立日光霧降アイスアリーナ、日光市細尾ドームリンク、今市青少年スポーツセンター屋内スケートリンク



日光が愛する競技！ 栃木県成年男子は、地元開催として迫真の戦いを繰り広げました。



出場できなかった少年男子の分も奮闘！ 8強へ勝ち進み、5位に入賞しました。



スケート(スピード)

【日時】1月25日(火)～28日(金)

【会場】日光市霧降スケートセンター



成年男子500メートル1位
あべけいご
阿部啓吾選手(県スポーツ協会)

国体ルールでは複数の選手が同一のコースを滑走して順位を競う独自のレース方式のため、スタートダッシュからぐんぐんと伸びる選手同士のし烈なスピード争いが見応え抜群。

県勢の入賞が相次ぎ、見守る側も応援に熱が入りました。



成年女子500メートル4位
うさみすずね
宇佐美鈴音選手(県スポーツ協会)

栃木県の成績 ～とちぎ国体冬季大会終了時点～

スケート競技会・アイスホッケー競技会終了時点での栃木県の天皇杯得点(男女総合成績)は124点の7位、皇后杯得点(女子総合成績)は38点の10位となりました。今年10月1日から開幕する秋の本大会に向けて弾みをつける成績結果となっています。

カンパシまる!
し・ち・ぎ



入場の際は検温と体調管理チェック



こまめな消毒

ライブ配信で試合を観戦



7日間にわたる氷上の熱戦を終えて

今回開催されたいちご一会とちぎ国体冬季大会は、新型コロナウイルスの第6波が急拡大する中、日頃より努力を重ねてきた選手の皆さんがその成果を最大限に発揮できる競技の場となるよう、安全・安心な大会運営に向けて感染対策を徹底し、すべての競技会場を関係者と選手の家族を除き、原則無観客として行いました。

そのため、競技会の様子はインターネットの「国体チャンネル」で全試合がライブ配信されました。コロナ禍においても競技に真摯(しんし)に取り組むアスリートの姿は、配信画面を通した形でも私たちにスポーツの力を感動として伝えてくれました。

氷上で繰り広げられた熱き戦いは、この後の大地を駆けめぐる本大会へと続きます。引き続きとちぎ国体を応援しましょう！



いちご一会とちぎ国体冬季大会
競技会動画のアーカイブ配信は
こちら▶



<https://japangamestv.japan-sports.or.jp/>

いちご一会とちぎ国体冬季大会
競技記録などの詳細はこちら▶



<https://winter.tochigikokutai2022.jp/>



冬季大会の
応援ありがとう
ございましたまる！